

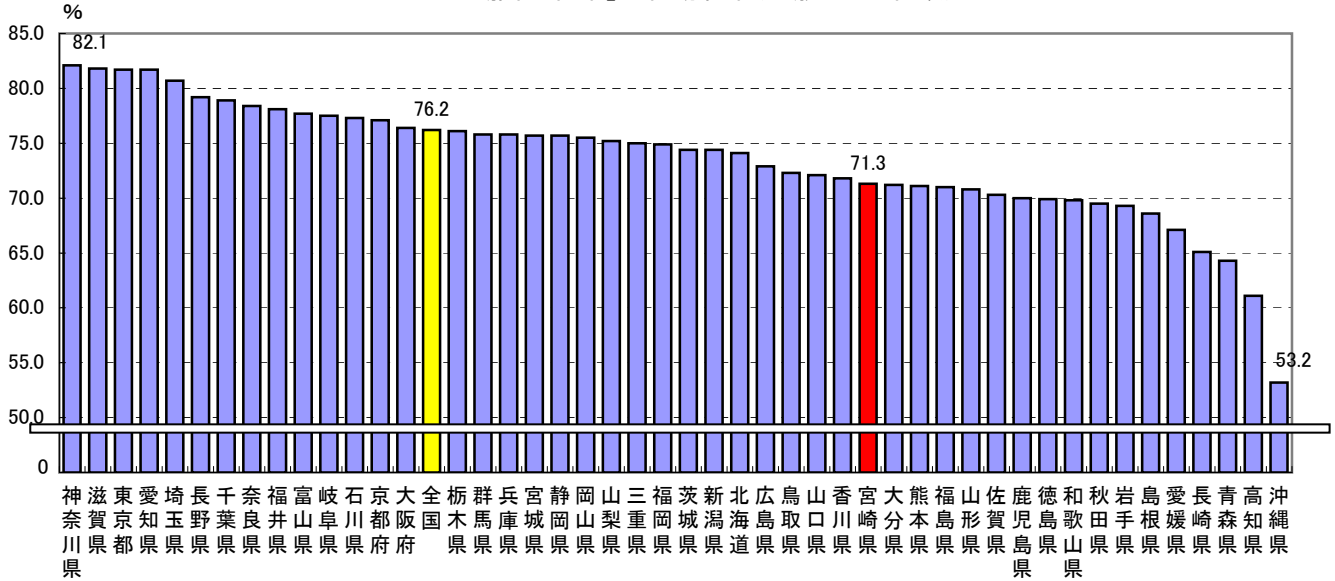
6 旅行・行楽

～1年間に「旅行・行楽」を行った人は約71万9千人で、行動者率は71.3%～

本県の10歳以上で過去1年間に「旅行・行楽」を行った人は約71万9千人で、行動者率は71.3%となっています。これは全国平均の76.2%に比べ4.9ポイント低く、全国順位で見ると第31位となっています。

これを男女別にみると、男性は約32万5千人で行動者率は68.9%、女性は約39万4千人で行動者率は73.5%となっています。（図6-1）

図6-1 「旅行・行楽」の行動者率(10歳以上 総数)



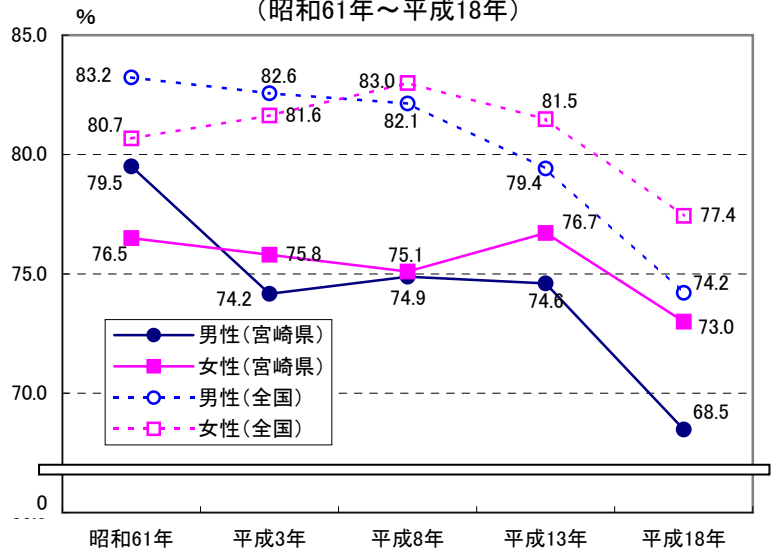
～男女の行動者率は拡大傾向～

本県の「旅行・行楽」の行動者率（15歳以上）の推移を男女別にみると、昭和61年以降、多少の増減はあるものの、全般的に低下傾向となっています。特に平成18年は平成13年に比べ、男性で6.1ポイント、女性で3.8ポイントそれぞれ低下しています。

男女間の格差は、昭和61年当時は男性が女性を3.0ポイント上回っていましたが、平成3年には逆転し、以降、女性が男性を上回っています。なお、平成18年では、男性68.5%、女性73.0%でその差は4.5ポイントとなっており、拡大傾向にあります。

また、全国も本県同様低下傾向にあり、同じように平成18年に男女とも大きく低下しています。（図6-2）

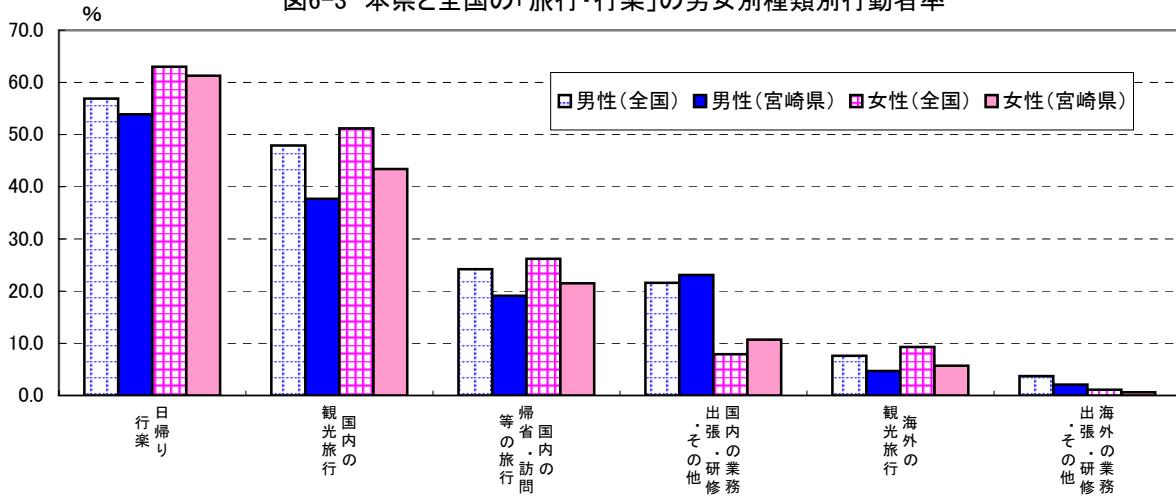
図6-2 本県と全国の男女別「旅行・行楽」行動者率の推移(15歳以上) (昭和61年～平成18年)



～「国内出張」は全国第5位～

「旅行・行楽」の種類別行動者率を全国と比較すると、本県は男女ともほとんどの項目で下回っていますが、唯一「国内の業務出張・研修・その他」（以下「国内出張」という。）のみ、男性で1.5ポイント、女性で2.8ポイント上回っています。総数でみても16.5%で、全国の14.6%を1.9ポイント上回っており、これは全国第5位となっています。（図6-3）

図6-3 本県と全国の「旅行・行楽」の男女別種類別行動者率

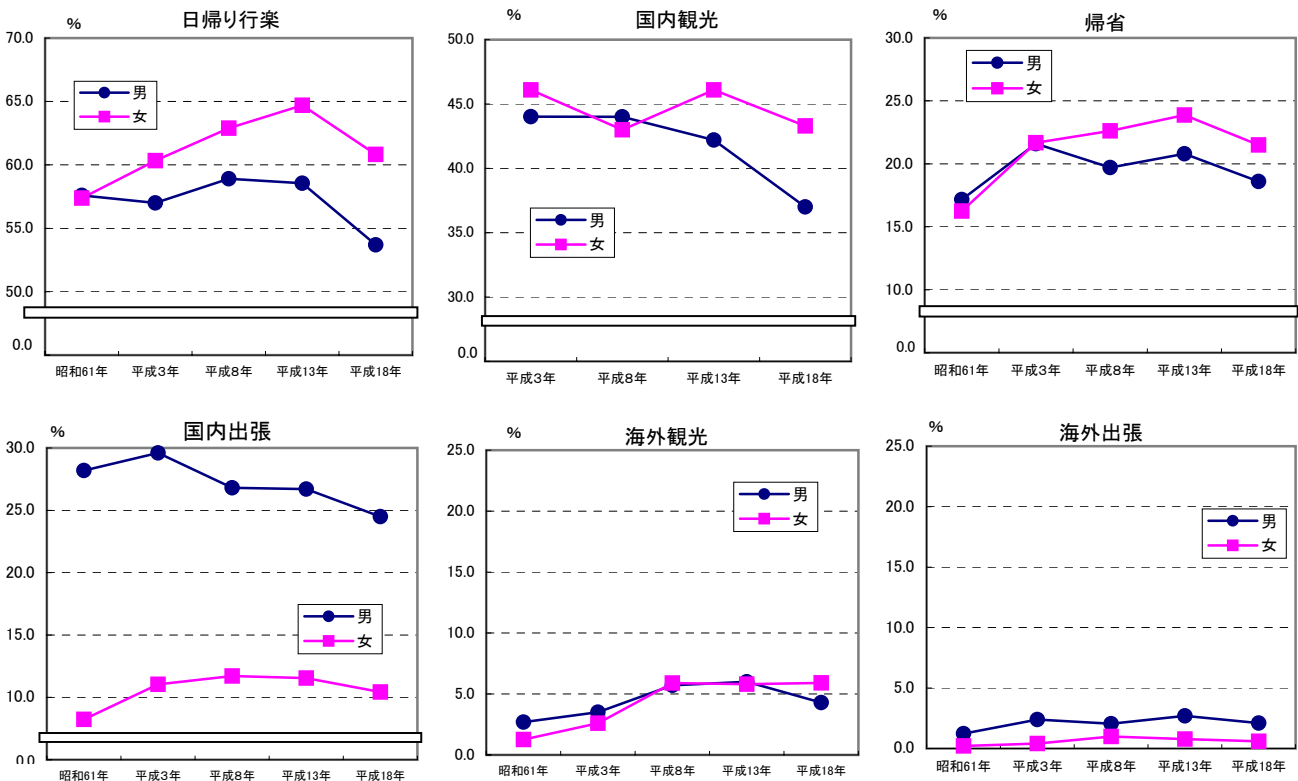


～女性の「海外観光」以外は平成13年と比べ全て低下～

比較が可能な表章について、種類別に推移をみると、「日帰り行楽」や「国内の帰省・訪問等の旅行」（以下「帰省」という。）などは昭和61年は男女ともほぼ同じ水準でしたが、その後は女性が男性を上回っており、男女間の差が拡大傾向にあります。

平成18年は、平成13年と比べると、男女ともほとんどの種類で低下しており、特に男性にその傾向が顕著にみられます。男性の「国内観光」や「帰省」などは、減少率が10%以上となっています。（図6-4）

図6-4 「旅行・行楽」の男女別行動者率の推移(15歳以上)(昭和61年～平成18年)

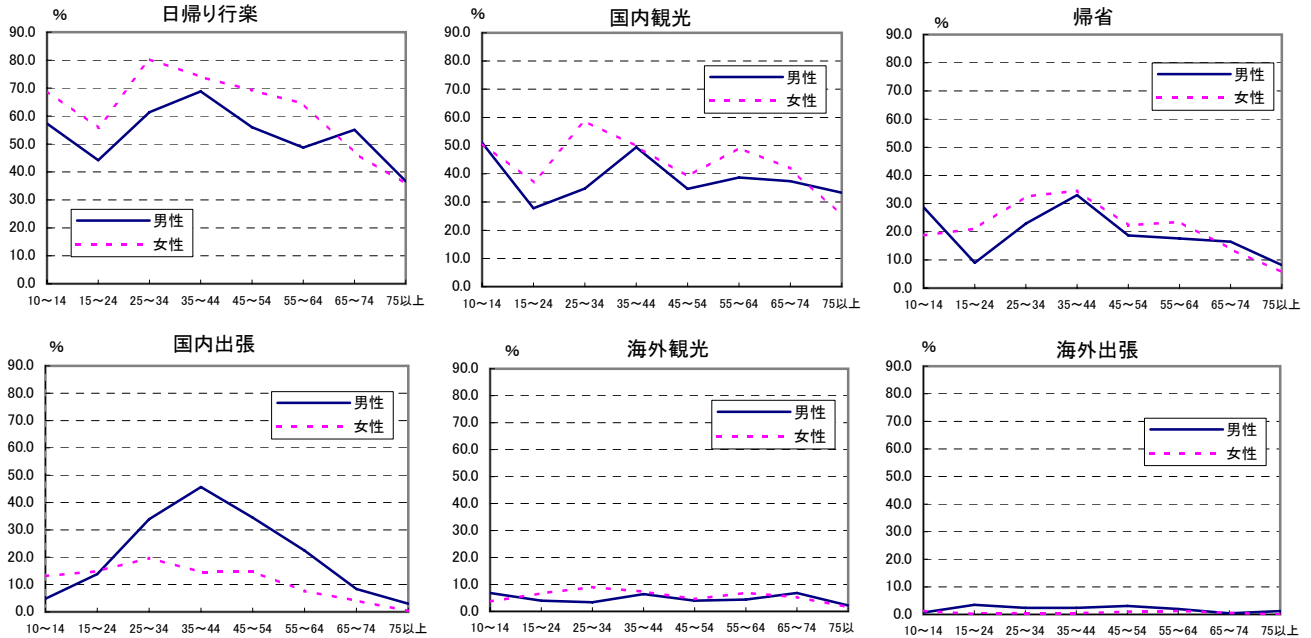


～高い男性の「国内出張」の行動者率～

本県の行動者率を年齢階級別にみると、「日帰り行楽」や「国内観光」は高齢者層を除き、ほとんどの年齢階級で女性が男性を上回っています。また、最も行動者率が高いのは、男性が35～44歳なのに対し、女性は25～34歳となっています。それから、男女ともみられる共通の特徴としては、15～24歳で行動者率が低下しています。

一方、「国内出張」は逆に、若年層を除きほとんどの年齢階級で男性が女性を上回っています。特に男性の35～44歳の行動者率は45.7%と他の年齢階級に比べ高くなっています。（図6-5）

図6-5 「旅行・行楽」の種類別、男女別、年齢階級別行動者率



～「旅行・行楽」の頻度は10日以上が最も多い～

「旅行・行楽」の行動者の頻度（何回「旅行・行楽」に行ったか）をみると、行動者総数を100とした時の構成比をみると、「日帰り行楽」では10回以上が最も多く、32.6%となっています。また5回以上の割合をみても、53.3%と過半数を超えています。一方、「1泊2日の旅行」では1回が29.8%と最も多く、1回及び2回で行動者の約半数を占めています。

全国と比較すると、全国も「日帰り行楽」では10回以上が多いもののその割合は3割に満たず、また「1泊2日の旅行」も1回が多いものの2割強と、本県ほどの特徴はみられません。（図6-6）

図6-6 本県と全国の「旅行・行楽」の行動者頻度別割合

